

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	22229007	研究期間	平成22年度～平成26年度
研究課題名	統合的心筋梗塞治療に向けた新たな分子レベルでの基礎研究	研究代表者 (所属・職) (平成28年3月現在)	佐藤 匠徳 (株式会社国際電気通信基礎技術研究所・佐藤匠徳特別研究所・特別研究所長)

【平成25年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○ A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(意見等)	
<p>本研究は、心筋梗塞に関して「血管再生」「線維化抑制」「心筋再生」の観点から分子レベルでの基礎研究を展開し、これらを統合し新治療法開発を目指すものであった。当初の研究計画とは若干異なるが、angiocrine 因子の発見、臓器間の連結血管系の同定、線維芽細胞の虚血時代謝の特異性の発見と独創性の高い成果が報告されており、これらを利用し心筋梗塞の新たな治療戦略の開発が期待できる。心臓における angiocrine 研究の加速を期待するとともに、「心筋再生」へのアプローチが老化研究だけで弱いので新たなアプローチを考えるなど、更に研究を進展させてほしい。</p>	

【平成28年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、十分ではなかったが一応の成果があった。
B	<p>本研究は、心筋梗塞に関して特に細胞外分泌性タンパク質（sFRP2）に注目し、分子レベルでの基礎研究を展開・統合し、一元的でない多元的な治療法開発を目指すものである。</p> <p>しかし、心筋梗塞に直接つながる研究成果は少なく、angiocrine 因子の発見、臓器間の連結血管系、線維化阻害剤、細胞形態と将来の機能などの成果はあるが、単発的で本研究との関連性が希薄である。</p> <p>本研究で得た成果を生かし、独創的な研究を進展させ、心筋梗塞にも還元される成果を上げることが期待する。</p>